

大草谷津田いきものの里自然観察会

セミのぬけがら、みつけ

太田慶子（千葉市）

日時：2014年8月17日(日)10時30分～12時

天候：晴れ

参加者：20名（大人16名 子ども4名）

担当指導員：太田慶子・田井中信子

開始前に、セミの成体（ニイニイ♀・ヒグラシ♂♀・ツクツクボウシ♂・アブラゼミ♂・ミンミンゼミ♂・クマゼミ♂）や抜け殻の見本を並べておき、少し説明をしたりした。

まず、この時期からスズメバチは新女王・雄バチが生まれ神経質になるので、その対応について少し話をしてから始める。

参加者は木の上の方で鳴いているミンミンゼミの所に集まっていたので、場所を移動し、「セミは飛ぶので、鳴き声だけではそこで発生したとはいえず、抜け殻が見つかることで、その場所に棲息していることがわかる」と話す。抜け殻集めの前に、抜け殻の実寸イラスト表（図）を渡し、ニイニイには泥がついているとか、サイズのアブラゼミとミンミンゼミ、ヒグラシとツクツクボウシが同じくらいだと説明。土に抜け出た穴があちこち開いているので、細い枝を突っ込んでもらおうと、意外と？浅かった（4～8cmくらいだった）。ケースを渡して、いよいよスタート。

すぐに抜け殻を見つける子もいたが、大きなミミズが気になり歩みが進まない子もいる。スギにいた抜け殻は泥がついているからニイニイとすぐにわかったようだ。葉裏には大きめのアブラやヒグラシがよく見つかる。

下見の時に見つけた、羽化途中にホソアシナガバチにつつかれているヒグラシを見てもらい、4～5年も土中で暮らし、やっと出て来たのに羽化できずにいるセミもいると、成体になることの厳しさを話す。

「タマムシがいる」と言う声が・・・キノコがついている木の樹皮上にタマムシがいる。<きつと産卵場所を探しているのだろう>・・・と思いつつ、参加者を集める。その時、別のタマムシが飛んでいたのもので、手でキャッチ。こちらの方を見てもらい、子どもらには直接指で持ってもらおう。立派なコクワガタ♂を見つけてくれた人がいて、そこでまたストップ。いろんな形のクモの網に目が行く親子もいて、なかなか先へ進まない。そこで、予定を切り上げ広場に戻り、集めた抜け殻を分ける。結果はアブラが51、ヒグラシが50、ニイニイが14、ミンミンとツクツクボウシは見つからず。（下見の時通った道でツクツクの抜け殻2個あり）大草はスギなどの針葉樹の多い林なのでヒグラシが多く、また木の幹に登るニイニイの殻は雨で流されて少なかったのだろうとまとめた。

途中で、ヒグラシのオスを捕まえた時、（スタートする前に、♂の腹部は共鳴箱になっているのでカラッポだと、実際に殻を破って見てもらっておいだ）、腹部に指を当てて鳴くとそこが震えるのを体感してもらえたのはよかったと思う。最後に、クイズをして終えた。

参加者からは、抜け殻を集めるというのは新鮮に感じて楽しかったとか、前に来て楽しかったのもまた来たが、今回タマムシを見る事もできてよかった、と。

